

# み手のなかで



2012年3月

## 「どうして、こんなに苦しいのだろう」

三光教会 司祭 ニコラス 中川 英樹

今の日本の社会では、思想的な束縛もなく、階級制度もなく、物質的にも豊かで、欲しいものは何時でも容易に手に入れることができます。しかし、「どうして、こんなに苦しいのだろう」との想いが消えることがないのは何故なのでしょう。

今、日本社会は、格差の大きな社会といわれます。すべてが勝者か敗者かに仕分けされ、しかも、その責任は自己に還元され、一度、失敗したら、二度と再挑戦の機会が巡ってこないような、それが今のわたしたちの社会の現実です。

「どうして、こんなに苦しいのだろう」わたしたちの教会は、特別、何かができる力があるわけでもないし、むしろ何もできないのだけれど、人と人との結びの傷んだ社会に在って、嘆き苦しむ人びとの疲れた心の癒し処として、その痛みを受け止められるようにと、毎日、聖堂の扉を開いています。

教会は、もうすぐイースター、主イエス・キリストの復活の祝い日を迎えます。「十字架」という敗北とも想える現実の中に、イエスという人は倒れました。その十字架は、担ぐには余りに重く、イエスは倒れ、また倒れ、三度倒れたと聖書は記します。しかし、苦しみの故に、倒れゆくそのイエスの姿、ここには、人は何度でも倒れていい、という神からの大きな慰めのメッセージが示されています。そして、神は、その苦しみの最中から、イエスを引き起こした（復活させた）のでした。教会の信仰は、社会のそれは違って、再挑戦、再生、再創造を待ち望む信仰です。そして、それは自らの力に拠ってではなく、神が引き起こしてくれることの希望へとつながっています。

もし、教会に何かあるのだとすれば、それは、「信じる」という力だと想います。人を信じる、仲間を信じる、自分を信じる、そして、神を信じる。教会は、そうした信じる力こそ、「癒しの力」があるのだと信じています。

わたしたちのこのニュース・レター『み手の中で』は、教会が今、何を、誰を想い、何を、誰を大切にしたいと願っているか、そんな教会の想いが少しでも届けられるものになればとの想いでつくっています。そしてまた、「どうして、こんなに苦しいのだろう」そんな想いを抱えたときに、教会の扉が開いていることを思い出していただければ嬉しい限りです。

## 教 会 の 歴

### 【大齋節】

イエス・キリストは本格的な布教活動に入るにあたり40日40夜、荒野で悪魔に試みられながら、断食して祈られます。そのことを覚えて、古くから教会ではイースターの前の期間を「大齋節」と呼び（異なる呼び方の教派もあります）、自分も辛いことを耐えて献げながら、キリストの苦しみに思いを寄せています。今年は3月22日（水）から4月8日（日）のイースターに至る期間です。

### 【棕櫚の日曜日】

#### ■ 4月1日（日） 復活前主日

キリストがエルサレムにお入りになったとき、群衆は「救い主が来た」と自分の上着や棕櫚の葉を道に敷いて、ほめたたえて迎えました。しかし、数日後にキリストを十字架につけたのも同じ群衆です。私たちはこの日、これらの出来事を振り返り、棕櫚の葉の十字架を頂いて、聖歌を歌いながら聖堂を巡り歩く一方、聖書にあるキリスト裁判の場面に耳を傾けます。

### 【聖なる三日間】

#### ■ 4月5日（木） 聖木曜日

多くの画家によって描かれた「最後の晚餐」こそ、今もキリスト教が最も大切にし、守っている礼拝、すなわち聖餐式（ミサ）の始まりです。この日、私たちは「最後の晚餐」（聖餐制定）の礼拝を守りながら、やがて始まるキリストの受難に思いを寄せます。

#### ■ 4月6日（金） 聖金曜日（受苦日）

この日、キリストがゴルゴダの丘で十字架にご自身を献げられたことを記念します。

正午からイエス・キリストが十字架を担がされ刑場のゴルゴダの丘に向かわれる道のりを描いた14枚の絵を一枚一枚辿りながら、主の苦しみを思い、祈り、黙想します。どなたでも参加になれますので、どうぞいらしてください。

#### ■ 4月7日（土） イースター・ヴィジル（前宵祭） 午後7：00～ 三光教会聖堂 初代教会から大切に守ってきた、復活の朝へと続く礼拝です。

#### ■ 4月8日（日） イースター（復活祭） 午前 7：30 聖餐式 午前10：30 聖餐式

キリストのご復活を讃え、全世界の教会と共に感謝と賛美の礼拝を献げます。

※ 礼拝後愛餐会があります。お子さま向けのアトラクションもありますのでどうぞ、ご参加ください。

イエス・キリストの受難から復活に至るこれらの一連の物語は、聖書の記述に従って多くの画家や音楽家達によって作品として残されています。

## 東日本大震災から1年

司祭 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸

あの想像を絶する未曾有の出来事が起こりました、2011年3月11日午後2時46分から丸一年が過ぎました。今年の日、同時刻に日本のみならず、海外でも祈りや黙祷が捧げられたことは、ニュースなどを通じて私たちにも知らしめられました。改めて、人の心、人の絆を感じないわけにはまいりません。

私事になりますが、昨年夏以来、わずかな日数でしかありませんが、仙台、名取、石巻、釜石に伺いました。何度となくテレビ、新聞などで目や耳にはしていますが、その場に身を置いた時、画面や紙面を通してでは伝わらない、そして言葉にできない程の重く、厳しいものを肌で感じさせられました。

しかし、インパクトは崩壊した建物や、家が跡形も無く流された後の何も無い土地からだけではありません。そこで、今も力強く生きていらっしゃる方々の姿や言葉からも、深く、重いものを受けました。一つ一つを細かに書き記すことはできませんが、「家も、人も、思い出も、その多くが一瞬にして流された。けれども、こうして助かった自分たちは、『心までは決して流されない!』』という言葉に込められている、命に対する責任、真摯な在り方、力強さです。「人は自然の力によって徹底的に打ちのめされた。けれども、同じ自然の「力と人の優しさによって人は癒やされる」という、現代人の多くが心底求めている「癒しの力」を思い巡らせられる言葉もありました。

あれ程の厳しい、先が未だに見え難い状況に在られながら、ほぐれた心を失っておられないからこそ生み出されたであろう言葉もありました。「日本中で、世界中で、『頑張れ!頑張ろう!』』と言ってくれている。ありがたいことだ。自分たちは必ず『顔晴れる』『顔晴ろう』、そして必ず『もっと、もっと晴れやかな顔を取り戻すぞ』』と、私たちの方こそ、どれ程気付かされ、勇気付けられ、教えられているかと心に思います。

思いますに、如何に逼迫した状況や環境に在ってさえも、なお為し得る事があるという確信を決して捨ててはならない、ということ、改めて心に刻みたいと思います。そして、それを為し得ることが、人が生き、生かされている証ともなりましょう。被災され、計り知れない程の困難を背負われながらも、その命を賢明に生き続けておられる方々のためにも。同時に、尊い命を失われた方々のためにもお祈り続けたく思います。

## 礼拝のご案内

■日曜日

7:00

朝の礼拝

7:30

聖餐式Ⅰ

10:30

聖餐式Ⅱ

16:00

夕の礼拝

■月～土曜日

6:30

朝の礼拝

及び聖餐式

# ステパノ会（日曜学校）

■毎週日曜日

9:00~9:30

子ども達と保護者のための礼拝です

（4月8日のイースターは10:30の聖餐式に出席します）

第1・第3日曜日

12:45~

幼子と共に献げる祈り（就学前のお子さまを対象としています）

## 春のフラワーアレンジメント教室 「シャベットカラーの春のアレンジ」

陽ざしが少しずつのび、春はそこまでやってきています。

明るいシャベットカラーの花を飾り、春のしつらえをしませんか？

日時：4月18日（水） 13:30~15:30

場所：三光教会 会館

定員：先着30名様

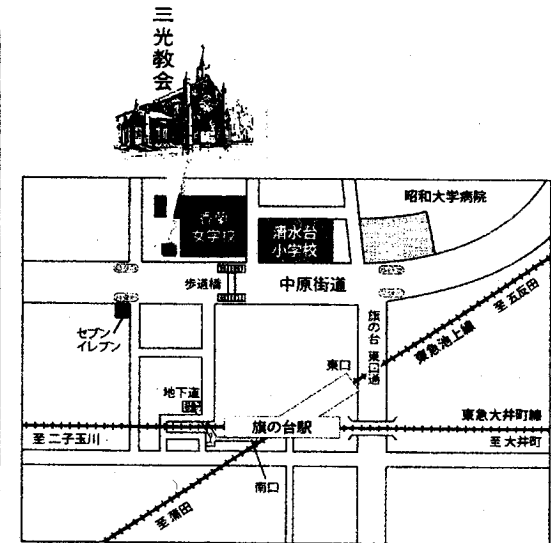
費用：2,500円

持ち物：エプロン、園芸用ハサミ、 作品を持ち帰る袋

下記の申込書をFAXで、03-3781-2544あてにお送りください。

材料準備の都合上、4月14日（土）を締め切りとさせていただきます。

お申し込みをいただいた方には確認のご連絡をさしあげます。



発行：東京都品川区旗の台 6-22-24 日本聖公会東京教区三光教会

TEL：03-3781-2554 FAX：3781-2544

### 申 込 書

4月18日（水） フラワーアレンジメント教室に参加します

ご氏名：\_\_\_\_\_

ご住所：\_\_\_\_\_

T E L：\_\_\_\_\_

F A X：\_\_\_\_\_